

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2016年12月号>

117号 2016.12.01 配信

今年も学園のヒマラヤ杉にイルミネーションが点灯しました。

学園の風物詩となり師走の風景を彩っています。

寒さがますます厳しくなります。くれぐれも健康に留意されて良い年をお迎えください。

■学園だより

- ・第6回オープンキャンパス 12月10日(土) 13:00~16:30
- ・大学キャンパス年末年始休暇 12月23日(金)~1月5日(木)

■同窓会だより

- ・年末年始休暇 12月23日(金)~1月9日(月)

●秋桜祭 11月12日(土)・13日(日)に参加しました。

皆様のご協力により、多くの来場者を迎えることができ大盛況のうちに幕を閉じました。
ありがとうございました。

【パネル展示】

「―追悼― ありがとう 田部井淳子さん(昭和37年英米文学科卒業)」

同窓生の田部井淳子さんが、病气療養中のところ、10月20日に、ご逝去されました。

<田部井淳子さん プロフィール>

1939年、福島県田村郡三春町生まれ。
昭和女子大学卒業後、社会人の山岳会に入会し、谷川岳や日本アルプスなど冬山や岩登りに情熱を燃やした。1969年、「女子登攀クラブ」を設立。1975年には、エベレスト日本女子登山隊の副隊長兼登攀隊長として女性として、世界初の登頂に成功。「エベレストのママさんの快挙」として一躍、世界中に名を知られた。1988年、福島県民栄誉賞を第1号として受賞。1992年、女性で世界初の7大陸最高峰登頂者となる。1995年、内閣総理大臣賞を受賞。

軌跡をたどるパネル展示の前では、多くの方が足を止め、数々のご功績に目を留める姿が見られました。
心からご冥福をお祈りいたします。



故田部井淳子さんのお別れの会
12月18日(日) 午後2時30分~4時まで
昭和女子大学グリーンホールにて
一般の献花と記帳を受け付けます

「ワーキングネットワークの活動紹介」

4つのネットワークの紹介、9月に実施した「ワーキング秋祭り」など活動内容の紹介をたくさんの写真とメンバーのメッセージを3枚のパネルにして展示しました。メールマガジンの案内チラシを配布し、その場で登録をしてくださる方もいました。



「人見楠郎先生生誕100年に寄せて」
展示風景



バザー会場には、44支部から寄付された支部ならではの品々が並びました。



会場では、6支部、同窓生の有志による12グループも出店。収益金は、奨学金に充てられます。

■広げよう光の葉

東谷 櫻子さん

2013年 文学言語学専攻 博士前期課程修了

現在 博士後期課程在籍

<しないよりはしてみよう>

「該当するご職業を下記から一つ選んでください」という、アンケートや申込書に困惑することがある。「一つ」を選択できずにペンを持ったまま悩んでいると「ご結婚されているのなら、とりあえず主婦に○を」と促される。先方に悪気はないのであろうが、「とりあえず」主婦をしているわけではないのにと、モヤモヤした心地になる。

現在、本学の博士後期課程に在籍し、週1日学習塾でパートタイム勤務（講習や受験期間になると毎日出勤）をし、主婦をしている。だから、「学生」「教育関連産業」「主婦」の3つに○を付けたいのである。

このような「モヤモヤ感」に遭遇することはあるが、私はこの「3足のわらじ」生活を心から楽しんでいる。そして豊かに丁寧な暮らしをするために「しないよりはしてみよう」という言葉を自分の心に呼びかけている。

元来のんびりした性格であるのに、一度何かに集中すると時間を忘れてのめり込む性質で、あらゆることに要領が悪い。研究資料のコピーや仕事の下準備、家事などの目の前の「to do リスト」に面喰い、不器用な私は時に戦意喪失することがある。

その重たくなってしまった腰をあげる魔法の呪文が「しないよりはしてみよう」なのである。この言葉は20代中盤の3年間に、悩んだり迷ったりして得たものである。

博士前期課程を修了した2013年、4月に学習塾に就職し、10月に小学校時代の同級生と結婚した。「仕事も家事も完璧なキラキラ女性の仲間入り」をしたつもりだったが、新社会人と新米主婦の同時進行は想像以上に余裕のないものだった。

溜まっていく洗濯物、冷蔵庫は空っぽで外食続き、今日も資源ごみを出し忘れた…。心も時間も余裕がなかったのは、自分が「完璧」を求め過ぎ、できなかったことばかりに焦点を当てていたからであると思う。日々の生活や人生に自分自身で「100%」を課すことは、あらゆる可能性や多様性に対して自ら壁を作り、見えないゴールを走るようなものなのである。

時短勤務に切り替え家庭生活を整えた2014年、パートタイム勤務になり博士後期課程に進学した2015年から2016年、自分にも家族にも大きな変化が幾度もあり、その中で「0よりは1」つまりは「無から有」になる意義を感じるようになった。

要領の悪い私には、日々やりたいこともやるべきことも山のようにある。その山を前にして「私には登れない」ではなく「少しだけ登ってみようかな」と思う。自分の足と意志で進んだ道のりを経た、頂上景色は登ってからの楽しみ。

「しないよりはしてみよう」それが明日をきっと素敵にしてくれる。そう信じている。

先日ご逝去されました田部井淳子さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。（END）